

学位論文審査の結果の要旨

Summary of Doctoral Dissertation Examination

氏名/Name	橋本 芙奈
審査委員 Examining Committee	Chief Examiner 種市 豊 (signature) 主 査 (署名)
	Assistant Examiner 高橋 肇 (signature) 副 査 (署名)
	Assistant Examiner 井上 憲一 (signature) 副 査 (署名)
	Assistant Examiner 能美 誠 (signature) 副 査 (署名)
	Assistant Examiner 松村 一善 (signature) 副 査 (署名)
題目 Title	中国地方 3 県における中小採卵養鶏経営の マーケティング戦略に関する研究 一鳥取県、島根県、山口県の事例に焦点をあてて一
審査結果の要旨	
<p>本研究は、長らく解明されていなかった中小採卵養鶏経営のマーケティング戦略を定性的に把握したものである。</p> <p>第 1 章では本研究の目的、調査対象の選定と経営規模の定義を述べ、序論としている。</p> <p>第 2 章では、鳥取県・島根県・山口県における中小採卵養鶏経営のチャンネル選択を解明するため、チャンネルの長さと幅の観点から調査結果を①販路開放型、②販路特定型、③消費者直販型の 3 つに分け、各類型の特徴を整理した。結果、対象とした地域の中小採卵養鶏経営は、短いチャンネルを選択する傾向にあった。各社の条件に合ったチャンネル選択は、経営の持続性を高めるうえで重要であり、鶏卵の汎用品化に伴う競合対策のひとつになると結論づけた。</p> <p>第 3 章では、鳥取県、島根県、山口県における中規模採卵養鶏経営とローカルスーパーの直接取引に焦点をあて、採卵養鶏経営のチャンネル管理の傾向を分析した。分析のフレームワークには、「パワー・コンフリクト論」と「協調関係論」を総合的に用いた。これにより、各理論で置換して議論されていた「対立」と「協調」または「パワー」と「信頼・コミュニケーション」といった概念を、チャンネル管理において混在するものとして調査結果を整理し、以下の点を解明した。対象とした中規模採卵経営とローカルスーパーは、二者関係の歴史が長く伝統的な取引である。パワー・ゲームは存在しながらも双方が取引を長期的視点で考えており、対立と協調が両立している状態にある。対象とした地域の中規模採卵養鶏経営は、一方的なパワー行使により管理されるチャンネルとは異なる取引関係管理行為として、不確実性の高さなどから</p>	

生じる不十分な部分をローカルスーパーとの信頼やコミュニケーションの蓄積によって補完していると結論づけた。

第4章では、中小採卵養鶏経営によるCSR（企業の社会的責任）の現状と課題を解明した。中小採卵養鶏経営が取り組むべき社会的責任の中核主題のうち「環境」、「消費者課題」、「コミュニティへの参画およびコミュニティの発展」に着目して、関連する活動を整理した。これらの取り組みによって得られる利点を①リスク回避、②チャンス拡大、③その他マネジメントにおける利点、の3つに分類し、マーケティング戦略のひとつとしての価値を提示した。ただ、中小採卵養鶏経営が既存の業務内容とCSRとの関連性を理解しきれていない点や、CSRの取り組みの価値をステークホルダーと共有できていない点など、課題が多いことも明らかとなった。また、ここでいう「環境」に寄与する取り組みとして、鶏糞堆肥と国産子実トウモロコシを用いた資源循環の事例をあげた。このような資源循環システムの構築を、輸送距離の違いから「地域利用型」と「遠隔地利用型」に分類した。「地域利用型」は、輸送コストを削減できるだけでなく、地域農業の活性化などにも有効であるが、子実トウモロコシの安定供給に係る技術的な課題が存在している。加えて、これらの活動を持続的に行うには、採卵養鶏経営側も上述したようなCSRの課題を解消し、マーケティングに活かす必要があると結論づけた。

第5章では、結論と今後の課題を述べている。

以上のように本研究は、採卵養鶏流通経済の研究深化に貢献するものであり、博士(農学)の学位論文として十分な価値を有するものと審査委員一同判断した。